

健苗育成のために作業計画を立て、安定した初期生育を確保しましょう！

令和3年産コメの1等級比率は、コシヒカリで92.0%、こしいぶきで81.1%(令和3年12月15日現在)、JAえちご上越となりました。収量は並(作況指数99)となりました。令和4年度も安定した品質を確保するためには、健苗育成が重要です。令和3年度は移植後の低温で活着が遅れたほ場も見られました。健苗の移植は早期の活着につながります。健苗育成で初期の生育量を確保し、高品質米の安定生産を目指しましょう。

令和4年産米の重点技術対策

目指す稲作り：気象変動に対応できる適正生育量の確保による高品質米及び安定収量の確保

- 1 土壌診断に基づく土づくり資材等の積極的な施用…土壌診断に基づく堆肥やもみ殻、土づくり資材の積極的な施用による地力の維持・向上を図る。
- 2 適期中干しの実施による適正な生育量の確保…目標穂数の7～8割を確保でき次第、中干しを開始する。また、確実に溝切りを行う。

1 育苗作業計画

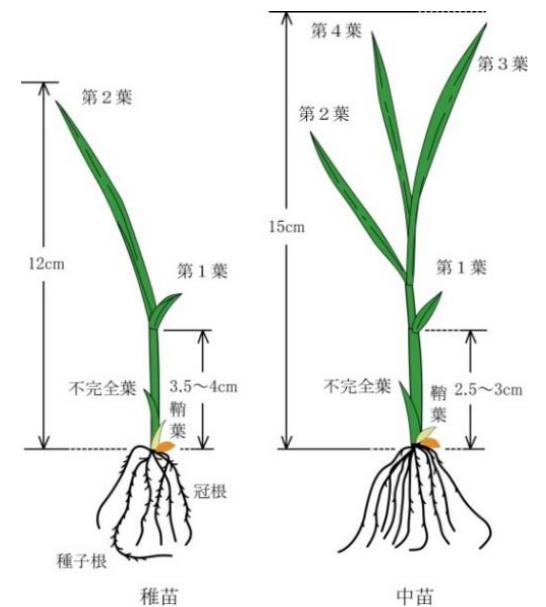
- 育苗期間のめやすは、稚苗(加温出芽ハウス育苗)で18日程度、中苗は30日程度です。
- は種(浸種)時期が早すぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画を立てましょう(表1)。
- 葉齢は、稚苗2.0葉、中苗3.5葉がめやすです(図1)。
- は種(浸種)時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育不良、生育の後ずれ、茎数不足につながります。
- 露地プール育苗は低温での活着が劣るため、早いのは種(移植)は厳禁です。平均気温が13℃以上となる4月20日以降には種しましょう。

【表1】 稚苗の育苗スケジュールの例(5月15日移植の場合)

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
加温出芽ハウス	4/15～	4/25～	4/27	4/27～	4/29～	5/2～	5/15
無加温出芽ハウス	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/29～	5/2～	
加温出芽露地プール	4/13～	4/23～	4/25	4/25～	4/27～	4/30～	

浸種は10日程度、
催芽は1～2日程度がめやす

予定する移植日から逆算
(18日程度)



【図1】 規格苗(左:稚苗、右:中苗)

2 種子予措・は種作業

(1) 種子消毒

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病(葉鞘がすじ状に変色し枯れる)、ばか苗病(苗が異常に徒長)などの発生が見られます。温湯消毒の単独処理では防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬との体系防除を実施しましょう。

(2) 浸種

- 水温は10℃～15℃で積算水温100℃がめやすです。
- 「コシヒカリ」の種子の休眠は「深い(前年並)」と推定されます。休眠が深いと推定される「コシヒカリ」や「つきあかり」の浸種は、水温12℃で積算水温120℃をめやすとし、発芽揃いを良くしましょう。
- 浸種には必ず清水を用い、水量は籾容量の2倍程度(種子1kgに対して約3.5リットル)とし、酸素不足を防止しましょう。
- 特に、浸種初日の水温が10℃より低い場合は発芽不良を起こす場合があるので、低温にならないよう注意しましょう。

(3) 催芽

- 温度は30℃、1～2日をめやすに行います。
- 「コシヒカリ」、「つきあかり」、「五百万石」などは発芽しにくい品種のため、催芽不足に注意しましょう。
- もち品種は発芽しやすいため、芽の伸ばしすぎに注意しましょう。
- 鳩胸状態の籾が80%程度になったら催芽を終了します(図2)。



【図2】 鳩胸状態の籾

【表2】 一箱当たりのは種量(g)

主な品種	区分	乾籾	催芽籾
コシヒカリ	稚苗	130～140	160～175
	中苗	80～100	100～125
つきあかり	稚苗	145～155	175～190
	中苗	90～110	110～135

(4) は種

- は種量は表2を参考にしてください。
- 厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。育苗様式に合わせては種量に注意しましょう。